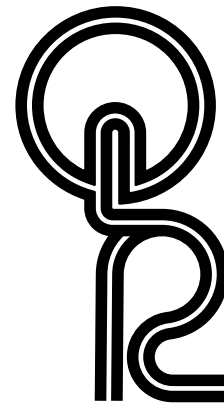


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 11 No.2, 2004



台湾光復國中学校跡地に建設中の921地震博物館内に保存される
車捕籠断層 (Chelungpu Fault) の断層露頭
(2003年10月 Dr.P.B Yuan 撮影)

Vol. 11 No. 2

April 1, 2004

2004年合同大会 プログラム 2	評議員会議事録 10
2004年大会のお知らせ(第2報) . 5	第四紀学専門委員会議事録 13
ミニシンポジウム報告 8	幹事会議事録 14
研究委員会の募集 9	会員消息 14

地球惑星科学関連学会 2004年合同大会 第四紀関連セッション プログラム

セッション J042 『第四紀』 オーラルセッション

5月11日(火) 9:00 ~ 10:30 幕張メッセ国際会議場 301A

- 9:00 ~ 9:15 音波探査記録からみた根室海峡野付崎周辺海域の海底地形と堆積構造 内田康人・菅 和哉・嵯峨山積
- 9:15 ~ 9:30 東京都板橋区赤塚公園および大田区萩中公園地下のテフラ層序とそれに基づく房総半島上総層群との対比 佐藤万理・鈴木毅彦・中山俊雄
- 9:30 ~ 9:45 多摩ローム層テフラの再記載と対比 中里裕臣・中澤 努・水野清秀
- 9:45 ~ 10:00 富士山北麓の湖底堆積物から湖形成史を探る.. 輿水達司・内山 高・吉澤一家
- 10:00 ~ 10:15 テフラ対比から見た大桑層の堆積年代-大桑O1火山灰(北陸層群)と坂東2(東海層群)・原(古琵琶湖層群)火山灰との対比-..... 田村糸子・山崎晴雄・水野清秀
- 10:15 ~ 10:30 トルコ・アナトリア高原における過去2万年間の乾湿変動の復元 鹿島 薫・廣瀬孝太郎・山口正秋

セッション J042 『第四紀』 ポスターセッション

5月10日(月) 13:30 ~ 5月11日(火) 13:30

コアタイム: 5月10日(月) 17:15 ~ 18:45 幕張メッセコンベンションホールA

- E S R , T L , O S L 測定法による第四紀テフラの年代測定(1) 豊田 新・塚本すみ子・鈴木毅彦
- 手法間クロスチェックを用いた¹⁴C年代測定法の高精度化-テフラ試料を基にして-..... 宮入陽介・福岡孝昭・兼岡一郎
- 潮間帯における珪藻遺骸群集の形成過程-北海道東部の塩性湿地群を例に- 澤井祐紀
- 北海道北部, 幌延町北進地域の段丘堆積物の特徴 安江健一・石井英一・浴 信博
- 沖積低地に認められる旧河道の形成・放棄時期と完新世後期の海面変動-仙台平野- 松本秀明・野中奈津子・久連山寛子
- 多摩丘陵および大田区萩中公園地下に産出する前期更新世テフラの対比 鈴木毅彦・佐藤万理・中山俊雄
- 魚津断層帯の地形・地質発達史 小河奈美江・竹内 章
- 富山平野神通川流域における火山泥流堆積物の起源 小石容代・大井信三
- 琵琶湖高島沖湖底堆積物の粒径変動からみた環境変遷とその要因 齋藤笑子・井内美郎
- 堆積速度から推定する京都盆地の形成過程 土志田正二・岡田篤正・竹村恵二
- 愛媛県北灘湾の過去約100年間の底質環境変遷 天野敦子・井上卓彦・岩本直哉
- 別府湾海底コア堆積物中の詳細火山灰層序 松岡裕美・岡村 眞・島崎邦彦
- 中央アジア, テルスケイアラト-山脈における最終氷期の氷河前進期... 奈良間千之・塚本すみ子
- 南極蒸発岩カルサイト中の硝酸ラジカルとその成因についての考察 谷 篤史・佐藤英夫・池谷元伺

セッション J064 『沖積層研究の新展開』 オーラルセッション

5月12日(水) 10:45 ~ 12:15 幕張メッセ国際会議場 202

- 10:45 ~ 11:00 東京低地・中川低地下に分布する沖積層の総合研究の進展-2年目- 木村克己・宮地良典・田辺 晋
- 11:00 ~ 11:15 東京都葛飾区周辺下に分布する沖積層の堆積相とその時空間分布 田辺 晋・宮地良典・木村克己
- 11:15 ~ 11:30 バリアーシステムの発達する沖積平野の沖積層の層序区分-越後平野を例とした層序の細分の問題点- 卜部厚志
- 11:30 ~ 11:45 開析谷の形状の違いに規制されたラグーン環境の地域的变化-新潟平野完新統を例として- 吉田真見子・卜部厚志・保柳康一

- 11:45 ~ 12:00 海底堆積物中の重金属元素濃度を用いた、有明海環境 100 年変遷史の評価 横瀬久芳・本座栄一・百島則幸
 12:00 ~ 12:15 中部九州有明海域の沖積層 - 環境解析の新しい展望 長谷義隆・平城兼寿

セッション J064 『沖積層研究の新展開』 ポスターセッション

5月11日(火) 13:30 ~ 5月12日(水) 13:30

コアタイム: 5月11日(火) 17:15 ~ 18:45 幕張メッセコンベンションホールA

- 猫瀬戸における海水面上昇と潮流速の変化 中條喜友・井上卓彦・大平 亮
 底質分布と海底地形の変化に示される sand dune の堆積物移動様式 布川裕也・岩本直哉・井上卓彦
 音波探査記録からみた鳥取県西部, 美保湾の完新統基底面分布と後期更新世以降の地史 井上卓彦・井内美郎・塩屋藤彦
 瀬戸内海備讃瀬戸海域の“沖積層” 井内美郎・大平 亮・塩屋藤彦
 東京低地小松川サイト(GS-KM-1C)における沖積層のイオン濃度変化特性 原未来也・内山美恵子・竹内美緒
 東京都葛飾区で掘削した沖積層コア(GS-KNJ-1, GS-KTS-1)の堆積相・放射性炭素同位体年代値 宮地良典・田辺晋・中島 礼
 南北海道, 後志利別川低地における完新世海進期堆積物の AMS¹⁴C 年代とその古環境 鈴木正章・下山正一・遠藤邦彦
 ベトナム、メコンデルタの沖積層 - その層序と堆積システム - 立石雅昭・メコンデルタ形成過程研究グループ

セッション J027 『活断層と古地震』 オーラルセッション

5月11日(火) 10:45 ~ 17:00 幕張メッセ国際会議場 301A

- 10:45 ~ 11:00 元禄地震(1703)とその津波による千葉県内集落別詳細被害分布 都司嘉宣・伊藤純一・上田和枝
 11:00 ~ 11:15 寛政五年(1793)宮城県東方沖に発生した地震の震度分布および津波浸水高から評価した震源モデル 行谷佑一・都司嘉宣・上田和枝
 11:15 ~ 11:30 津波堆積物調査に基づく歴史津波の遡上高と侵入過程の推定 小松正義・宮地直道・西村裕一
 11:30 ~ 11:45 後氷期の海水準変動に伴った断層活動度の活発化 古本宗充
 11:45 ~ 12:00 日本列島内陸における主要な 290 活動セグメントの規模と活動性の特徴 粟田泰夫・吉岡敏和
 12:00 ~ 12:15 地震調査研究推進本部地震調査委員会の活断層評価への疑問(3) 当別断層 .. 大津 直
 13:45 ~ 14:00 富良野断層帯, 御料断層のスラスト構造 大津 直・田村 慎・廣瀬 亘
 14:00 ~ 14:15 北海道東部太平洋沿岸域に記録された地震性海岸隆起 - 17 世紀におけるイベントの例 - 澤井祐紀・佐竹健治・那須浩郎
 14:15 ~ 14:30 黒松内低地断層帯における低角逆断層による地層変形とその活動時期 吾妻 崇・後藤秀昭・下川浩一
 14:30 ~ 14:45 国府津・松田断層の完新世における活動様式と活動期 太田陽子・伊藤谷生・松島義章
 14:45 ~ 15:00 音波探査およびNSSピンポイントコアによる渥美半島沖断層群の構造発達史 .. 荒井晃作・池原 研・田中裕一郎
 15:00 ~ 15:15 神戸市街下にのびる渦ヶ森断層の地中レーダ画像 宮田隆夫・近藤大輔
 15:30 ~ 15:45 Relation of fault maturity with surface rupture occurrence and topographic expression in the Tottori-ken Seibu earthquake area 杉山雄一・宮下由香里・小林健太
 15:45 ~ 16:00 四国北西部に発達する南北系断層の地質学的意義 - 西南日本弧-琉球弧会合部におけるネオテクトニクス - 市原 寛・榊原正幸・大野一郎

合同大会プログラム

- 16:00 ~ 16:15 四国の中央構造線活断層系の分布形態を規制する中期中新世火成岩体 長谷川修一・渡辺弘樹・澤田臣啓
16:15 ~ 16:30 北アナトリア断層 1944Bolu-Gerede 地震震源断層活動史の詳細説明 奥村晃史・Rockwell, Thomas K.・Duman, Tamer
16:30 ~ 16:45 断層の分布形態と縦ずれ変位パターンから見たルソン島のフィリピン断層系のセグメンテーション 堤 浩之・中田 高・後藤秀昭
16:45 ~ 17:00 ASTER DEM 及び 3 次元画像による 2003 Mw 6.6 Bam (SE Iran) 地震の活断層のマッピング 付 碧宏・雷 興林

セッション J027 『活断層と古地震』 ポスターセッション

5月11日(火) 13:30 ~ 5月12日(水) 13:30

コアタイム: 5月11日(火) 17:15 ~ 18:45 幕張メッセコンベンションホールA

- 北海道東部太平洋沿岸域に記録された地震性海岸隆起 - 過去 2000 年間における繰り返し間隔 - 澤井祐紀・那須浩郎・佐竹健治
北海道富良野断層帯における重力異常と構造推定 田村 慎・大津 直・石丸 聡
十勝平野断層帯中～北部の反射法地震探査 廣瀬 巨・大津 直・田近 淳
航空機レーザースキャナーで判読した十勝平野中央部撓曲帯の微小地形 向山 栄・佐々木寿
反射法地震探査からみた横手盆地東縁断層帯の前進過程と第四紀後期の活動性 内田拓馬・宮内崇裕・今泉俊文
2003 年宮城県北部地震震源域南部における S 波バイブレータを用いた反射法地震探査 倉橋稔幸・稲崎富士
新庄 - 山形断層帯の活構造 楮原京子・今泉俊文・八木浩司
新潟県越後平野西縁, 角田・弥彦断層と鳥越断層群とは同時に活動しない 酒井俊朗・高尾 誠・武田智吉
上下変位速度の時間的・空間的な変化からみた鳥越断層の地表長評価の妥当性 金 幸隆・岡田篤正
ボーリングコアの解析からみた足柄平野東縁部の古環境変遷と国府津松田断層の地震性地殻変動 小島 淳・宮内崇裕・上杉 陽
境峠・神谷断層帯北部, 長野県奈川村内における境峠断層の活動履歴 吉岡敏和・細矢卓志・橋本智雄
活断層データベースを利用した全国主要活断層の活動セグメント単位のパラメータ評価 吉岡敏和・栗田泰夫・下川浩一
富山/岐阜県境, 牛首断層の最新活動時期 宮下由香里・吉岡敏和・桑原拓一郎
阿寺断層系中北部における断層活動時期の比較 廣内大助・安江健一
北陸地方東部の活断層とその上下変位速度 中村洋介・岡田篤正・竹村恵二
1945 年三河地震の地表地震断層とその変位量分布 杉戸信彦・岡田篤正
山地斜面におけるピット調査から推定された駄口断層の短い活動間隔とその解釈 金田平太郎・井上 勉・竹村恵二
山口盆地に伏在する活断層の調査 水野清秀・小松原琢・下川浩一
GPR survey for the Gosukebashi fault zone in the Rokko Mountains.... 近藤大輔・宮田隆夫
中央構造線活断層系・父尾断層における反射法地震探査 今村朋裕・堤 浩之・石山達也
雲仙活断層群の第四紀後期における活動 - 千々石町におけるトレンチ掘削調査と普賢岳北斜面で
確認された断層露頭の解析 - 松岡 暁・堤 浩之・竹村恵二
北アナトリア断層系海底活断層の完新世活動史と海盆形成... 岡村 眞・松岡裕美・Kuscu, Ismail
北アナトリア断層系・Gerede セグメントの 4 回の歴史地震にみられる固有変位量 近藤久雄・Ozaksoy Volkan・Yildirim Cengiz
衛星画像解析による昆侖山中部 Ms8.1 地震の地表地震断層の形態と変位量分布 林 愛明・郭 建明

第四紀学会 2004 年大会のお知らせ (第 2 報)

第四紀学会 2004 年大会案内

1. 日時・開催場所：2004 年 8 月 27 日 (金) ~ 30 日 (月), 山形大学
2. 発表の申し込み締め切り：2004 年 6 月 11 日 (金)
3. シンポジウム「活構造と盆地の形成」(依頼講演のみになります)
4. 巡検の概要 (8 月 29 日 ~ 30 日実施。「新庄盆地周辺のテフラクロノロジーと活断層」申し込みは次号で案内)
5. 普及講演会 2004 年 8 月 28 日 (土) 午後「活火山と活断層」(市内中心部の別会場で実施)
6. 宿泊 (次号 3 号に案内します)

1. 日時・開催場所の概要

研究発表, 総会, 評議委員会, 懇親会, シンポジウム, 普及講演会, 巡検:

日程: 2004 年 8 月 27 日 (金) ~ 8 月 30 日 (月)

実行委員会委員長: 陶野郁雄

連絡先: 陶野郁雄

〒 990-8560 山形県山形市小白川町 1-4-12
山形大学理学部地球環境学科
e-mail: tohno@sci.kj.yamagata-u.ac.jp
Tel: 023-628-4644 Fax: 023-628-4661

開催場所:

一般研究発表 (口頭・ポスター), シンポジウム, 総会, 懇親会: 山形大学 (場所等の詳細は第 3 報, 第 4 報でお知らせします)

27 日 (金) 一般講演, ポスターセッション, 評議委員会 (夕方)

28 日 (土) 一般講演, 総会 (昼前), ポスターセッション, 懇親会

29 日 (日) シンポジウム「活構造と盆地の形成」

28 日 (土) 普及講演会 (午後)「活火山と活断層」(市内別会場)

8 月 29 日 ~ 30 日 (月) 巡検「新庄盆地周辺のテフラクロノロジーと活構造」(案内者: 八木浩司ほか)

2. 発表の申し込み

2-1. 一般研究発表の申し込み

今大会では, 一般研究発表をオーラル・セッションとポスター・セッションの 2 つに区分します。ポスターの掲示は終日可能です。

一般研究発表での講演を希望される方は 7 ページにある「発表申込用紙」(コピーでもよい) に所定の事項を記入の上, 「2-3 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿及びそのコピー 1 部を 6 月 11 日 (金) までに (必着厳守) 行事幹事までお送り下さい。原稿は行事幹事への到着をもって原稿の受付といたします。一般研究発表では 1 人一件のみの発表が可能です。オーラル・セッションの発表時間は 1 人およそ 12 分 (質問時間を除く) 程度を予定しています (発表件数によって変更の可能性有り)。発表時間を厳守していただくために, スライド・OHP の使用は合計で 8 枚以内とさせていただきます。十分な説明や討論を希望する方には, ポスター・セッションへの申し込みをおすすめいたします。昨年同様にポスター発表の口頭ショートサマリー発表を行う予定です (各 2-3 分)。オーラル・セッション, ポスター・セッションともに講演要旨集に 2 ページ執筆して下さい。申込用紙の書式には, 連絡先としてファックス番号と電子メールアドレスを, 是非ご記入下さい。メールアドレスは, 読み易いようにご記入下さい (印字したものを歓迎します)。

要旨集原稿の送付先:

〒 305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7 産業技術総合研究所 海洋資源環境研究部門
日本第四紀学会行事幹事 斎藤文紀あて
(TEL: 0298-61-3895, 3772)

FAX: 0298-61-3747

e-mail: yoshiki.saito@aist.go.jp

(送付は郵便でお願いします。メール添付は受け付けていません。また送付先は実行委員会ではありません。お間違えのないようにご注意下さい)

2-2. シンポジウムの原稿提出

シンポジウムで発表される方は, 「2-3. 講演要旨の原稿の書き方」にしたがった写真製版可能な原稿及びそのコピーに, 「発表申込用紙」(コピーでもよい) を添えて, 6 月 11 日 (金) までに上記の行事幹事までお送り下さい。原稿枚数は 2 ページまたは 4 ページでお願いします。今回は依頼講演者のみが対象となります。

2-3 . 講演要旨の原稿の書き方

原稿用紙は、発表者各自が用意した A4 版白紙を、横書き・縦置きで使用してください。左右各 2.5cm、上端 3.0cm、下端 3.5cm は空白にしてください。表題・著者名は、(例)のように和文表題・著者名(所属)、英文著者名・表題の順に書いてください。和文表題は、1 行目の左側を 1.5cm あけて(左端から 4.0cm)左詰めで書いてください。2 行以上にわたる場合でも 1.5cm あけて左詰めで続けてください。

和文著者名は、和文表題の後改行して、発表者を右端に右詰めで書いてください。2 行以上にわたる場合でも 1.5cm あけて右詰めにしてください。所属は和文著者名の後にカッコを入れて簡潔に書いてください。英文著者名・表題は、和文著者名の後改行して、左詰め著者名・表題の順に「;」でつないで書いてください(所属は不要)。本文は英文表題の次の 1 行をあけて書き始めてください。行数・字数は自由ですが、36 行・35 字程度を目安としてください。不明な場合は昨年 の 要旨集を参考にしてください。本年も同一仕様です。

ワープロ使用の場合は濃く印字してください。手書きの場合は黒色インクまたは黒色ボールペンを使用し、濃く細く書いてください。手書き図表の場合は黒インクを使用し原稿用紙に直接書くか、あるいは青色方眼紙・白紙・トレーシングペーパーなどに清書して枠内に貼ってください。図が原稿の上下端、左右端の空白部分にかからないようご注意ください。印刷時に A4 の原稿が B5 版に縮小されますので、図の縮尺については「何分の 1」という表現はし

ないで必ずスケールを入れてください。

3 . シンポジウム

「活断層と盆地の形成」

今回はシンポジウムに関連する口頭及びポスター発表の募集を行いません。シンポジウムの詳細は次号を御覧下さい。

セッション : 東北日本における活構造と堆積盆の形成

セッション : 盆地の形成と外縁山地の大規模地形変化

総合討論

4 . 巡検

「新庄盆地周辺のテフラクロノロジーと活構造」(案内者:八木浩司ほか)を行います。活火山の中にある肘折温泉泊付の 1 泊 2 日です。シンポジウム終了後に出発します。詳細及び募集は、次号の第四紀通信に掲載します。

5 . 普及講演会「活火山と活断層」

市内別会場で開催します。詳細は次号を御覧下さい。

6 . 宿泊

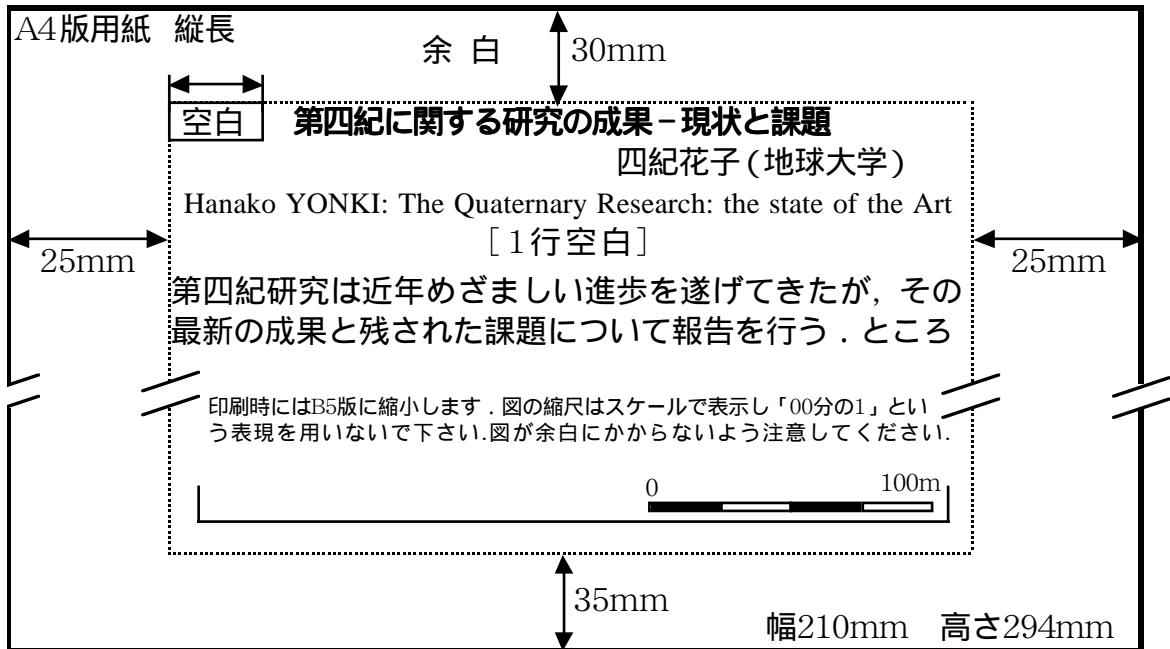
宿泊の案内と申し込みは次号の第四紀通信を御覧ください。

町田 洋ほか著「第四紀学」(朝倉書店)の正誤表について

第四紀研究第 4 2 巻 6 号に紹介された町田 洋ほか著「第四紀学」(朝倉書店)には、引用文献表に不備がみつき、刷り直したとのことです。新たな引用文献および本文主要正誤表は、朝倉書店ホームページ(<http://www.asakura.co.jp>)内の『第四紀学』のページから pdf ファイルをダウンロードいただけるとのこと、また朝倉書店編集部『第四紀学』担当宛にご連絡くださればお送りするとのことです。

(〒162-8707 東京都新宿区新小川町6-29 TEL:03-3260-1963 / FAX:03-3268-1376)

「講演要旨の書き方の例」と「発表申し込み書」の書式



発表申し込み書

氏名・所属				
講演題目				
キーワード (3~5個) <small>講演要旨には掲載しません</small>				
代表者の連絡先	〒			
	e-mail :		Tel :	Fax :
発表種別 (を付ける)	一般研究発表			シンポジウム
	口頭発表	ポスター	どちらでもよい	
スライド・OHP の使用(を付ける)	スライド (8枚以内)	スライド+OHP (8枚以内)	OHP (8枚以内)	液晶プロ ジェクター

ミニシンポジウム「富士火山の最近の知見と防災への応用」の報告



(久保純子 撮影)

2004年1月31日(土)の14:00から明治大学駿河台キャンパス12号館2103教室において、「富士火山の最近の知見と防災への応用」というテーマでミニシンポジウムを開催した。最近ではマスコミの報道などを通じて富士山への関心が高まっており、同様のシンポジウムが他の団体の主催でも行われたとの話もあったが、当日は例年の当学会のミニシンポジウムより多く79名もの参加者があり、会場の教室はほぼ満席の盛況であった。また参加者には、非会員の方もかなり多かったようである。最初に当学会の熊井久雄会長からあいさつがあり、その後は東京都立大学の鈴木毅彦氏の司会でシンポジウムを行った。シンポジウムの講演は当初3題を予定していたが、講演予定の宮地直道氏が急用により参加できなくなったため、以下の2題の講演を行うこととし、宮地氏の講演内容は小山真人氏の講演に多少含めてお話しいただくということにした。

鷓川元雄(防災科学技術研究所) 「富士山の地下で何が起きているか」

小山真人(静岡大学教育学部) 「富士山のハザードマップはどのようにして作られたか」

参加者は熱心にこれらの講演を聴き、活発な質疑応答が行われた。3時間ほどのミニシンポジウムではあったが、参加者の富士山への関心は高く、実り多いシンポジウムとなった。

(企画担当幹事 河村善也)

学生会員の皆さまへ「学生会員継続届け」提出のお願い(再掲)

2000年度から学生会員は、毎年在籍中であることを「学生会員継続届け」として提出して頂くことになっています。2004年度(2004年8月1日～2005年7月31日)を学生会員として継続希望される方は、A4判の用紙(様式自由・ワープロ使用)に、申請者の所属・学年・氏名・連絡先・指導教員氏名を明記のうえ、指導教員の署名または捺印を添えて、2004年4月16日(金)までに日本学会事務センターまで郵送してください。本届けが提出されない場合は、5月に予定されている会費請求時に、正会員会費にて会費請求がされますので、ご注意ください。なお、本年度、学生会員として入会された方も提出願います。また、日本学術振興会特別研究員(PD)や科学技術特別研究員などは通常会員となります。

問い合わせ先：庶務幹事 久保純子(早稲田大学)

(FAX:03-5273-4435、E-mail:sumik@waseda.jp)

送付先：〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9

(財)日本学会事務センター3階 日本第四紀学会事務局宛

TEL:03-5814-5801/FAX:03-5814-5820

提出方法：郵便に限ります。

研究委員会の募集のお知らせ

研究委員会は、会則第17条に基づく特別委員会の一種で、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループです(下記内規参照)。国際第四紀学連合(INQUA)の研究委員会(Commission:分科会Sub-commission,作業部会Working Groupを含む)などに対応する国内委員会としての役割を果たすことを目的としています。2003年7月に開催されたINQUA第16回大会で新しく決まった委員会構成を受けて、2004年度(2004年8月～2005年7月)研究委員会の募集を行います。

今回発足したINQUAの新委員会については、第四紀学会ホームページの「INQUAの新Commission組織と新しい研究計画の公募のお知らせなど」をごらんください。

委員会の設置を希望される場合は、下記内規を参考に、委員会名、代表者名、連絡先、目的、活動予定期間、予想される参加者数と少なくとも5名以上の正会員の提案者名を明記の上、6月30日までに庶務幹事まで文書(または電子メール)でお申し込み下さい。委員会は全て新規募集になります。2003年度の委員会の継続を希望される場合も、改めて申込書をご提出ください。

提案頂いた委員会は、本年8月に予定されている評議員会で審議されることとなります。承認され次第、助成金の交付を受けることができます。

庶務幹事 久保純子

(連絡先) 169-8050 新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学教育学部
TEL. 03-5286-1583, FAX. 03-5273-4435, E-mail sumik@waseda.jp

日本第四紀学会研究委員会内規(1992年9月13日評議員会)

- 1) 研究委員会は、会則第17条に基づく特別委員会の一種で、第四紀学の特定の研究課題についての国内・国外の情報を交換し、研究を推進するためのグループである。当分の間、国際第四紀学連合(INQUA)の研究委員会(Commission)(分科会Sub-commission,作業部会Working Groupを含む)などに対応する国内委員会としての役割を果たすことを目的とする。
- 2) 研究委員会の設置は、少なくとも5人以上の正会員からの申し出に基づいて、幹事会から評議員会に提案され、評議員会の承認を得るものとする。
- 3) 研究委員会の発足を希望する会員は、委員会名、代表者、連絡先、目的、活動予定期間、予想される参加者数などを文書で幹事会に申し出るものとする。
- 4) 研究委員会の目的を推進するために、学会は財政的に可能な範囲内で、研究委員会の会議費を4年を限度として交付する。
- 5) 研究委員会の任期は当面4年間とするが、5年度以降も会議費の配分を受けずにさらに4年を限度として任期を延長することができる。
- 6) 研究委員会は、集会の開催通知や活動記録などを「第四紀研究」に掲載することとし、集会は一般会員にも公開することを原則とする。
- 7) 研究委員会の責任者は毎年年度末までに活動報告および次年度の活動の希望の有無を幹事会を経由して評議員会に文書として提出しなければならない。
- 8) 研究委員会の運営は責任者に一任するが、この内規で処理できない点については、幹事会と協議するものとする。

2003年度第2回評議員会議事録

日時：2004年1月31日(土) 10:30～13:00
場所：明治大学駿河台校舎 12号館10階 2102教室

議長：公文富士夫

出席者：熊井久雄(会長)、井内美郎、池原 研、犬塚則久、岩田修二、上杉 陽、遠藤邦彦、太田陽子、小野 昭、河村善也、菊地隆男、公文富士夫、小泉武栄、斎藤文紀、鈴木毅彦、土 隆一、永塚鎮男、兵頭政幸、町田 洋、松浦秀治、松島義章、真野勝友、山崎晴雄(以上評議員)、久保純子(幹事)、中川庸幸(学会事務センター)、委任状10通

斎藤行事幹事の司会で熊井久雄会長の挨拶の後、公文富士夫評議員を議長に選出し、以下の報告と審議が行われた。

・報告事項

1. 2003年度事業中間報告

1-1. 庶務

(1) 会員動向(2004年度1月15日現在)

正会員1748名(うち、学生会員69名、海外会員18名を含む)、名誉会員4名、賛助会員13社、団体購読会員99団体、総計1864。逝去会員：市毛陽二郎会員(逝去日2003年10月8日)。

(2) 2003年度第1回評議員会を2003年8月29日に大阪市立自然史博物館において開催した。出席者25名、委任状16通。議長：宮武頼夫。2003年度総会を2003年8月30日に大阪市立自然史博物館において開催した。議長：遠藤邦彦。これらの詳細は、議事録として第四紀通信10巻5号に掲載した。

(3) 図版引用許可の受付、会員名簿整理、寄贈図書受付(2003年8月1日から2003年12月31日までに17冊)を行なった。

(4) 以下の学会・シンポジウム・講演会等の後援を行った。第47回粘土科学討論会(共催)2003年9月24-25日、第19回ヒマラヤ-カラコルム-チベットワークショップ(後援予定日程変更)2004年7月、第17回国際堆積学会議(後援予定)2006年。

(5) 2004年日本第四紀学会論文賞に向けて、論文賞選考委員の選挙を行なった。熊井久雄会長から推薦された11名の候補者に対して、評議員による選挙を行なった結果、以下の5名が候補者として選出された。竹村恵二、鈴木毅彦、松浦秀治、犬塚則久、大場忠道。次点、稲田孝司。

(6) 50周年記念事業にむけて、「50周年記念事業実行委員会」の設立を準備中である。

(7) その他：学会規定・内規の確認作業を行った。情報学研究所電子図書館への参加について検討中である。

1-2. 行事

(1) 日本第四紀学会2003年大会(総会、評議員会、シンポジウム、一般研究発表、懇親会、普及講演会、巡検)を、大阪市立自然史博物館において、2003年8月29日(金)～9月1日(月)に開催した。8月29日、30日には、一般研究発表を行ない、口頭39

件、ポスター53件、合計82件の研究発表が行われた。また29日夕方に評議員会、30日に総会を行った。8月31日(日)には、午前中にシンポジウム「大都市圏の完新統に記録された人と自然の相互作用」が行われ、7件の発表があり、午後は大阪市立自然史博物館と共催で、普及講演会「大阪100万年の自然と人の暮らし」(一般公開、科学研究費補助金交付事業)を開催した。一般研究発表には、254名が参加し(参加費を払った人)、普及講演会には、212名の参加があった。これらに引き続き、9月1日には「大阪南部の大阪層群の地層および大阪平野の沖積層における堆積物と遺構」(案内者：三田村宗樹・松田順一郎)を実施した。巡検申込者は定員22名に対し31名にも達したことから、定員を2名増加して24名の参加で実施した。

(2) 2004年地球惑星科学関連学会合同大会の準備を行った。詳細は、渉外の項を参照。

(3) 日本第四紀学会2004年大会の準備を行った。大会は、山形大学において、一般研究発表・総会・シンポジウムを、2004年8月27日(金)～29日(日)に、普及講演会を8月28日(土)午後別会場で、野外見学会を8月30日に予定している(大会準備委員長 陶野郁雄)。シンポジウムは「活構造と盆地の形成(予定)」、普及講演会は「活火山と活断層」、野外見学会は新庄盆地とその周辺(案内者：八木浩司ほか)を予定している。

1-3. 編集

(1) 第四紀研究42巻5号(原著論文3編、短報1編、資料1編、書評1編、70頁)、6号(原著論文3編、総説論文1編、書評2編、INQUA Newsletter, 13-2、83頁)を刊行した。43巻1号は原著論文4編、短報1編、書評3編で編集済印刷中である。2月1日刊行予定。

(2) 投稿規定(2003年8月一部改正)と執筆要項(2003年7月一部改正)は42巻6号に掲載した。ただし、実施年月日が従来から記載されていなかったため、選挙規定と同様の扱いとし、それぞれ「付則本規定は2004年1月1日から実施する」、「付則本要項は2004年1月1日から実施する」を追加して43巻1号に再度掲載することとした。

(3) 2004年1月4日現在の受理済み原稿(43巻2号以降に掲載予定)は4編、査読中21編である。43巻3号は大会特集号「大都市圏の完新統に記録された人と自然の相互作用」の予定であり、現在編集途中である。

(4) 2003年中に刊行された投稿論文の査読をお願いした方々の氏名を一括掲載し、謝意を表すことを実施に移した。43巻1号に掲載する。

(5) 問題点：2003年には、合計で46編の投稿があった。原著論文25編、短報11編、総説1編、書評9編。1999年46編、2000年49編、2001年43編、2002年33編に比べて極端に少ないわけではないが、原著と短報の割合は2000-2002年では原著が8割以上を占めていた。これに対し2003年は7割を切ったことと、書評の本数が多かったことが特徴である。1号当たりの原著・短報の掲載本数は5-7編程度であるので、特集号を除く5号分で掲載され

る論文本数は1年間で30編程度である。取り下げや掲載不可の論文を考えると上記の投稿数は決して十分な数とは言えない。

また、完成度の低い投稿論文もあり、査読や修正に長い時間がかかる論文もいくつか見受けられる。内容の問題もあるが、日本語の文章表現の稚拙さもかなり目につき、査読者の方々にも御苦勞を強いているものが少なくない。今後、良く推敲された原稿の投稿を積極的に呼びかける必要がある。

1 - 4 . 広報

(1)「第四紀通信(QR Newsletter)」Vol.10 5(2003年10月)とVol.10 6(2003年12月)を刊行し、Vo.11 1を準備した。

(2)学術情報センターのインターネットWWWサーバ上の日本第四紀学会ホームページを通じて広報活動を行った。

(3)「第四紀通信(QR Newsletter)」のVol.10 5とVol.10 6を、それぞれ発行前月の中旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。

(4)「第四紀通信(QR Newsletter)」の編集作業において、印刷原稿を電子文書(PDF)化して印刷所へ送る方法を確立した。

1 - 5 . 渉外

(1)地球惑星科学関連学会
<2004年合同大会>

第四紀学会としてレギュラーセッション「第四紀」を応募し採択された。また、同時に採択された「古地震と活断層」セッション提案者のメンバーとして、地震学会・地質学会とともに共同コンピナーとして参加することとなった。多数の参加を期待する。

会期：2004年5月9日(月)～13日(木)

(プログラム未定)

会場：幕張メッセ国際会議場

各種オンライン登録・締め切り

1. 予稿集原稿 受付開始：1月5日 早期締切：1月26日、最終締切：2月6日

2. 大会参加登録 受付開始：1月5日 締切：3月12日(全日程参加)、4月28日(一日のみ参加)
上記受付登録は、すべて以下の合同大会公式web siteで行う。http://www.epsu.jp/

<連絡会>

2003年9月24日に東京大学地震研究所にて開催され、2003年合同大会の会計報告、2004年合同大会の準備状況などについて審議され承認された。連絡会、特に事務局の今後の体制についての検討を始めるよう要請があった。

(2)自然史学会連合関連：

2003年11月29日に国立科学博物館新宿分館資料館にて自然史学会連合総会が開催され、決算報告・ホームページ・地域博物館での研究活動などの報告と、予算・2005年加盟学協会共催シンポジウム実施などについて審議が行われ承認された。同日午後は、シンポジウム「予測の自然史科学」が開催された。

(3)地質科学関連学協会、地球環境科学関連学科協議会については報告事項なし。

1 - 6 . 企画

(1)ミニシンポジウムを2004年1月31日(土)に開催することとし、その企画・準備を行った。ミニシンポジウムのテーマは「富士山の最新の知見と防災への応用」、講演は3題で、鶴川元雄氏による「富士山の地下で何が起きているか」と宮地直道氏による「富士山の噴火史はどこまで明らかになったか」と小山真人氏による「富士山のハザードマップはどのようにして作られたか」を予定している。会場は明治大学駿河台キャンパスである。このミニシンポジウムのために、ポスターの原案を作成し、業者に発注して印刷し、関係する個人や機関に送って掲示を依頼した。

(2)このほか、50周年記念事業準備委員会の設置に向けて、幹事会で委員候補として名前のあがった会員に依頼を行った。

(質疑)

編集幹事報告に対し、完成度の高い論文の投稿を促進する方策について検討することが提案された。

報告の進め方について。現在、各幹事が事務的に報告をし、それを評議員が承認するという形をとっている。各幹事が活動の問題点や苦勞したことなども合わせて報告してもらえば、評議員の方から対策などアドバイスできるので、そうして欲しいとの意見が出された。

2 . 2003年度会計中間報告

松浦会計幹事より、別紙に基づき2003年12月31日現在の中間報告があった。全体としては特に問題はない。主な点は以下の通り。

(1)会費納入率は現時点で85%程度であり、従来の中間報告時点での納入率とくらべ若干下がっているが、ほぼ順調である。

(2)誌代のうち予稿集(講演要旨集)売上代金は大阪大会収支に含まれているため計上しなかった。講演要旨集売上代は通常この誌代に含まれるが、別紙の「第四紀学会2003年大会会計収支報告」に記載されているように、講演要旨集が収入として、また講演要旨集印刷費(予稿集印刷費)が支出として、それぞれを含んだ形で処理されている。一方で、大阪大会への学会からの準備金は、そのまま余剰金として学会会計に返却されている(雑収入に記載の500,010円)こともあり、予稿集の売上と印刷費の差額を差し引いても、学会会計としては約37万円の増収となる。以上から、今年度の会計には予稿集売上を誌代に計上せず、同時に予稿集印刷費も計上しない処理を行うが、2003年度の年度会計収支の備考欄には、その旨と金額を記しておく。

(3)会誌発行費のうち、編集人件費が0となっているのは、年度決算まで内訳がわからないため、決算時に処理される。

(質疑)

特になし

3 . その他

3 - 1. 日本学術会議地質科学総合研究連絡委員会

第四紀学専門委員会報告（町田評議員）

委員長は岩田修二評議員であるが、第1回委員会欠席のため町田評議員より報告があった。

（内容については第四紀通信 11 巻 1 号 p.18 に掲載済みのため省略）

3 - 2 . 科研費審査委員推薦の件（町田評議員）

学術会議の平成17年度科学研究費審査委員候補者については、地質学研究連絡委員会（第1段候補者1名）、考古学研連、層位・古生物研連より、適任者の推薦（情報提供）を第四紀学会へ依頼する予定。

3 - 3 . INQUAの新Commission組織と新しい研究計画の公募のお知らせなど（町田評議員）

2004以後のINQUA新Commissionについて報告があり、新しいプロジェクトの応募（3月1日まで）については早急に周知をはかるよう要請があった。（本内容については第四紀学会ホームページに掲載されているため省略）

以上のほか、学術会議の第四紀学専門委員会によるINQUAについての説明資料（略）が提示された。

（質疑）

学術会議研連の専門委員会改組については、いままでの研連と名前が変わっただけだが、今後大幅な変更が予想されるとの補足説明があった。

科研費審査委員候補者推薦については、山崎幹事長より、地質学研連、考古学研連より連絡があり、評議員の投票により推薦をおこなう予定であること、古生物研連についても依頼があるはずであることが補足された。このほか、候補者推薦はエネルギーを消耗する作業だが各位の協力をお願いしたいこと、科研費の応募件数を増やす努力が必要であること、古生物研連において「第四紀」のキーワードがない点は申し入れをすること等が確認された。

学術会議のINQUAに対する分担金については、どこにも保証されていないがどうするのかという質問があった。

INQUAの新委員会・プロジェクト公募については、5つの新委員会のうち2つの委員会について今回情報が提供されたが、他の3つの委員会については手分けして情報収集をおこなうこととした。また、INQUAからの助成金はどのくらいかという質問に対し、アジア太平洋層序委員会には500ドルくらいでありあまりお金は出ない、プロジェクトの場合は3000-4000ドル程度であるがわくがきびしいこと、公募の説明をする方法としては、4月までに研連メンバーにはメールで、会員には学会ホームページで周知をはかる等の説明があった。

・ 審議事項

1 . 論文賞選考委員の承認

2004年日本第四紀学会論文賞候補者として選出された以下の6名（次点者を含む）が承認された。竹村恵二、鈴木毅彦、松浦秀治、犬塚則久、大場忠道、次点、稲田孝司。

2 . フリーディスカッション

2 - 1 . 投稿論文の質の向上について

査読等の処理を速くできるようにならないかとの質問にたいし、現在は完成度の低い論文の場合は、査読を依頼する前に編集幹事と担当委員で相談の上、コメントを付けて著者へ返しているとの回答があり、図面のチェックを含め、大学院生等の場合は指導教官が目を通すようにPRすることも必要であろうとの意見が出された。

2 - 2 . 50周年記念事業について

(1)学術会議との関連

学術会議でも2006年を中心にInternational Year of Planet Earth, Earth Science for Societyという事業を準備しており、リンクさせられるのではないかと。

(2)記念出版物

第四紀地図の改訂をしてはどうか。東大出版会の意向も打診する必要がある。40周年のときは会員が増えたが、現在は負の時代に入り、従来通りの事業でよいのか。市民からの負託を受け、倫理規定を持つべきである。

第四紀学に関心を持つ人を増やす努力が必要である。

50周年事業として、啓蒙書を出してファンを増やし、市民権を得る必要がある。

学会として啓蒙書は大切である。

この50年間に何をしてきたかという総括として、会員むけのオーソドックスなもの一般への啓蒙のためのものの両方やるべきだし、しっかりしたものが啓蒙化されれば研究者も感動する。そういうものをめざすべきだ。

INQUA招致のために作成したCD-ROMは活用できないか。

中学校や高校で使えるような絵や写真を多用したCDはどうか。Webにのせる場合は著作権の問題をクリアする必要がある。

この議論を議事録として実行委員会へ提出すべきである。

(3)実行委員会の組織

「準備委員会」を「実行委員会」としたが、企画委員にも加わっていただけたらどうか。

実行委員会に企画委員全員が参加するする必要はない。少人数で必要に応じ意見をいただけたらどうか。

実行委員会の長は会長がなるべきで、準備委員会がそのまま実行委員会になるのはいかがなものか。

企画委員会から実行委員会へメンバーを残してはどうか。

以上の意見をふまえ、山崎幹事長より、個々の実施責任者は別として、司令塔の役割としての「実行委員会」が再提案され、承認された。

2 - 3 . その他

INQUA説明の参考資料は、学術会議への報告書からの引用である。第四紀研究にもINQUAの報告掲載の予定である。また、「INQUA招致の顛末」を同じ号に報告してはどうか、記録を残すことが必要であるとの意見が出された。

編集書記の勤務多忙についての質問にたいし、待遇については手を打っている、今後の具体的な話は本人からはきいていないとの回答があった。

(別紙)

日本第四紀学会 2003 年大会会計収支報告(略)
日本第四紀学会会計中間報告(2003 年 12 月 31 日現在試算表)(略)

(参考資料)

国際第四紀学連合 INQUA (International Union for Quaternary Research)について: 日本学術会議第四紀学専門委員会(略)

第 19 期・第 2 回第四紀学専門委員会議事録

この議事録はまだ正式には承認されていませんが早めに情報をお伝えするために掲載いたします。

(岩田)

日 時: 平成 16 年 2 月 20 日(金) 10:00 ~ 12:30
場 所: 日本学術会議 第 2 部会議室
出 席: 岩田、町田、小野、竹村、三田村、河村、奥村、多田
欠 席: 斉藤、川辺、松浦

成立確認後、前回議事録を誤字修正の上承認

・報告・議事概要

1. 多田隆治委員の紹介
2. 学術会議報告(町田)

日本学術会議法の改正について、<資料あり>

- ・制度改革: 会員選考方法が「日本学術会議が会員候補者を選考する」になる。定年制の導入と再任の禁止。半数改選制の導入。
- ・内部組織の改革: 部の大括り 従来の 7 部から 3 部制(人文科学、生命科学、理学及び工学)に改組。連携会員を新設。幹事会の設置。副会長の増員。
- ・内閣府への移管
- ・施行日: 平成 17 年 10 月 1 日

日本学術会議の今後の活動について(案)<資料にもとづき説明>

平成 16 年秋までに重点項目を絞り、提言、17 年 3 月に報告書

4 部として特に重視する点は、「基礎研究の重要性」、「国民に対するアピール行動」である。

質問: 「会員による講演会」には月曜日 18:00 から開催とあるが、午後 5 時以降の開催は可能か。

第 4 部の会合では、連携会員の作り方、都立大問題、16 年度の代表派遣等が話された。

研究委員会での質疑として、大括りはこれで名称決定かとの質問があった。

3. INQUA の各コミッションの研究計画の募集に

ついて(資料に基づいて経過報告、町田)

- ・2 月末が締め切りで、第四紀学会ホームページに掲載中

- ・奥村委員より、2005 年 1 月の Hokudan Symposium が Terrestrial Process に提案されていることが紹介された。

- ・Paleoclimate の情報が必要である。

- ・審議事項と関連して、今後どうするかについて、各種国際会議日程等も専門委員会に情報収集してホームページにも流す努力をする。ことが議論された。

4 科研費審査委員の研究者情報の提供について

(資料、岩田)

- ・推薦ではなく、情報提供に変更。

- ・地質学 1 段と層位・古生物 2 段 2 名が増えている。とりまとめは第四紀学会に依頼中。

- ・キーワードについて

5. ほかの研連の動きについて

- ・環境地質学専門委員会(資料あり、町田)

JABEE 関連シンポジウム開催 2003 年 12 月 25 日 報告書がすでに作成済み。

特に外国の事情について紹介されている。

関連して、以下の意見等が交換された。

JABEE への認定は学部教育の改善との関連が大きい。第四紀学会ではときおり議論されてきた。理科離れと関連して、学会としての働きかけが必要ではないか。

教員養成大学の課題について紹介された。理科離れのみでなく、文化離れもある。

- ・IPY 国内委員会の動き(資料あり、岩田)

・審議事項

1. 19 期の活動内容の検討(前回にひきつづく自由討議と方針の決定)

まず、下記の意見交換がなされた。資料として、古生物学研連、化学研連のまとめ冊子が紹介された。

対象についての議論では、学術会議へむけた存在意義のアピールは社会へのアピールともつながる。

第四紀学とはどういうものか。研連活動と関連して過去にどのようなまとめをしてきたかの実情把握が必要で、また、各学会がこれまでまとめた情報や海外の情報を把握することが必要である。

カラー化と 1 - 2 ページの提言・アピールが望ましい。

あまり危機感(基礎理学の危機)を重視するのではなく、第四紀学の重要性をアピールする内容が必要である。魅力をアピールすることが第一義である。

シンポジウムと出版をあわせて考えると効率的である。

例: 百年・千年・万年後の日本の自然・人類

電子出版を考える。たとえば INQUA 招致事業の CD。

リーフレットと CD の組み合わせとする。

ホームページの活用も重要。

第四紀学会 50 周年とからみで考えるが、研連と

して現状をまとめて問題点を提起する必要がある。
第四紀学会50周年事業の答申内容が紹介された。
平成17年3月末まで、活動はしばらく行う。

2. 今後の予定と関連してシンポジウムに関する自由討議と方針

シンポジウムを実施し、第四紀研究の意義や魅力をアピールする。社会・学術会議向けのアピールをまとめ出版物にする。実施は11月末ころを予定。

内容をすぐまとめられるシンポジウムを開催する。たたき台を作成する。

具体案作成の課題として下記の点の考えをまとめる。

第四紀学会とのリンク。50年間学会は何をやってきたかの総括情報が必要になる。シンポジウムにとりこむので現状の問題点をまとめる。

第四紀学がこれまで何をやってきたかは必ず必要で、ここから課題がみえる。タイトルと重点を考える。

たとえば、「百年・千年・万年後の地球の環境と人間の生活 第四紀研究の評価と重要性 未来予測への貢献」などにするにしても、可能な分野・可能な時間範囲を意識する。地球の過去から未来を考える。

表紙、写真集は別枠で考える。

シンポジウムの対象は一般である。

3. 次回への宿題・分担として

シンポジウムのタイトル、趣旨と合致するアウトライン、分野での発表する適当な人選の3点の素案を準備することとした。

次回は日程調整をして、3月下旬か4月上旬に開催する。

(記録：竹村恵二)

後におこなう。

広報

第四紀通信11巻1号(2月)の編集状況について
渉外

地球惑星科学合同大会の日程は5月9日-13日、アブストラクト締切は2月6日となった。第四紀学会がオーガナイズするセッション(第四紀・活断層と古地震)への多数の投稿を期待する。

企画

1月31日(土)開催予定の第四紀学会ミニシンポジウム「富士山の最新の知見と防災への応用」にむけて、ポスターを作成し、100枚印刷した。完成したポスターは学会事務センターを通じて、関係各所に発送して掲示を依頼した。

2. 審議事項

(1) 転載許可

第四紀研究39-4「大阪湾地域の完新統海成粘土層の特徴と形成過程」の図2を、地盤工学会『地盤調査の方法と解説』へ転載を許可した。

第四紀研究掲載論文の図を著者が改変して他雑誌に投稿する場合は、出典を明記することを条件に許可することとした。

(2) 評議員会準備

1月31日開催の評議員会の準備をおこなった。各幹事からの報告事項の確認と審議予定の項目について確認し、議事資料の作成をおこなった。

(3) 50周年記念事業について

50周年記念事業にむけて、「50周年記念事業準備委員会」の名称を「50周年記念事業実行委員会」とし、事業実施までの司令塔という役割をお願いすることとした。また、メンバーの候補者について審議した。

次回は1月31日(土)評議員会の前に開催の予定。

2003年度第4回幹事会議事録

日時：2004年1月10日(土)14:00-16:30

会場：早稲田大学教育学部 16号館5階512演習室

出席者：熊井久雄(会長)、真野勝友(副会長)、山崎晴雄、小野 昭、斎藤文紀、兵頭政幸、河村善也、町田 洋(研連)、中川庸幸(学会事務センター)、久保純子(記録)

欠席者：松浦秀治、池原 研(編集委員会出席)、奥村晃史

議事：

1. 報告事項

庶務

会員動向11月分(退会4名)

受入図書なし、各種案内について

学生会員継続届け・論文賞候補者推薦依頼の件を第四紀通信に掲載する。

新研究委員会募集(INQUA対応)は、評議員会

第四紀通信に情報をお寄せ下さい

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：兵頭政幸(mhyodo@kobe-u.ac.jp)宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月1日刊行予定としていますが、情報の速報性ということから、版下が完成した段階でホームページに掲載するよう努力しています。奇数月15日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会

神戸大学内海域環境教育研究センター 兵頭政幸

神戸大学大学教育研究センター 松下まり子

福島大学教育学部 後藤秀昭

編集書記 岩本容子

第四紀学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/qr> から第四紀通信バックナンバーのPDFファイルを閲覧できます。